

平成 28 年度中学校武道授業(少林寺拳法)指導法研究事業



全員で上段突の練習

主催：(公財)日本武道館、(一財)少林寺拳法連盟
日本武道協議会、
後援：スポーツ庁、勝浦市教育委員会
協力：勝浦市立勝浦中学校
期間：6月24日(金)～26日(日)
会場：日本武道館研修センター

1日目(6月24日)

◆開講式

主催者挨拶で、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が「中学校武道必修化が始まり5年目を迎えますが、大きな事故もなく、順調に実施できています。全体として柔道が6割強、剣道が3割強、相撲他武道が1割と、実施率に大きな変化はありません。また、実施時間については平均9.8時間と微増で、複数種目の実施校が減少しています。日本武道協議会では、学習指導要領に武道9種目を全て明記することと実施時間の増加を働きかけています。

今後は内容が問われますので、保健体育教員を中心に、しっかりした指導体制を整えていくことが大切です。

来年は日本武道協議会が設立40周年を迎えます。その記念事業として、中学校武道必修化の充実と、武道9種目の周知徹底を目的にDVD3巻付きの指導書3冊を全国1万余校の中学校と市区町村の図書館に提供する予定で準備を進めています」と述べた。

続いて、研究者を代表し、中島正樹少林寺拳法連盟中学校武道必修化プロジェクト委員会委員長が「保健体育で組体操は危険なので禁止する、という自治体があるようですが、危険なことをいかに安全に行えるかを示すことが教師のあるべき姿だと思います。武道にも危険な技が多々ありますが、危険だからという理由で行わないと可能性がどんどん減少してしまい、教育的に好ましくな

いと考えます。

今回の研究事業では生徒自身が演武を評価することにより、思考と判断にどのような変化が生じるのか、どのように教育の効果を図れるのかを見ていきたいと思えます」と述べた。

◆総合打合せ

いかにして効果的な授業を行うかについての指導計画並びに指導方法についての検討を行った。また、2日目に行う指導案指導法(模擬授業)の内容検討を中島委員長が中心に行なった。

◆指導案指導法予備講習

夕食後、翌日行われる指導案指導法(模擬授業)について、各コマの詳細な内容検討を行った。入念に検討され、打合せは深夜にまで及んだ。



中島委員長



三藤理事・事務局長



検討協議の様子

2日目(6月25日)

◆事前打合せ・準備

模擬授業に備えた最終打ち合わせを行った。その後、各人それぞれの準備に入った。

◆指導法実践研究(模擬授業)

勝浦市立勝浦中学校の生徒9名の協力を得て、指導案指導法実践研究(模擬授業)を行った。今回は1、3、5時間目終了後、生徒に学習カードを記入させ、指導の成果を確認した。

◎1 時間目 (担当：前田武彦、石間信一研究協力者)

中学校での授業実践者である前田武彦研究協力者が武道及び少林寺拳法の特徴についての説明をした。その後、「礼法」「構え」「突き」「蹴り」「受け」の基本動作を楽しみながら行った。また、外部指導員役として石間信一研究協力者が「突き」をする際の体の動かし方について、より詳細な指導をし、生徒たちの理解を深めた。



上段突の練習

◎2 時間目 (担当：向田弘之研究者)

護身術としての少林寺拳法の意味合いを考えさせるために、相手が腹部を突いてきた時の対処法を、授業の冒頭に生徒達に考えさせた。続いて音楽のリズムに合わせて全員で少しずつ動いてみた。段階を踏みながら徐々に動きを増やし、最終的には下受蹴を行った。難しい動きではあるが、生徒たちはそれぞれ熱心に取り組んでいた。



研究者の模範演武

◎3 時間目 (担当：安田智之研究者)

2時間目に行った下受蹴を2人組になって練習した。その後3人組に分かれて掛かり稽古を行った。掛かり稽古は時間を計って攻守を交代しながら行った。これは多くの人と練習し、人によって違いがあることを気付かせることに狙いがある。また、お互いに感想を共有し、どのようにすれば上手くできるかを考えさせた。



下受蹴

◎4 時間目 (担当：高坂正治研究者)

5時間目に行う団体演武の発表を前提に、発表の仕方と採点ポイントについて確認した。そして、グループ毎に団体演武の練習を行った。

◎5 時間目 (担当：小井寿史研究者)

演武発表を行う際の審判としての採点ポイントを説

明し、最終練習をした。その後、順番に団体演武を発表した。発表するグループ以外の生徒が審判となり採点をした。審判をすることで、自分を律し、他者を尊重する態度を養うことが本時の狙いである。授業後、生徒からも「相手を思いやる気持ちが大切だと思った」という感想が聞かれた。



演武発表と採点

◆研究協議

模擬授業の成果について、各研究者より発表した。「導入時に技の組み立て方を考えさせたのがよかった」「音楽を利用しての二人一組によるエクササイズで新しい可能性が見つけられた」「少林寺拳法の教育効果は高いとあらためて思った」といった意見が出た。



模擬授業を終えて

3日目 (6月26日)

◆事例研究・指導法研究

まず前田研究者から「市の『ゆめおり応援予算』に申請して予算を付けてもらい、備品購入に充てられた」「自分は数学教員なので、体育教員、校長、教育委員会の理解を得ることが大切」「外部指導員以外にも少林寺拳法部の生徒に協力してもらって授業を実施した」との授業報告があった。

石間研究者からは「合気道部の学生は柔法に、空手部の学生は剛法に大変興味をもって受講していた」「解剖学的な説明をした上で体感させた。技術理論だけでは理解することが中々できない」と大学での授業報告がなされた。

高坂研究者からは「幼少期に運動経験が乏しい子にはゆっくりとした動きを繰り返すと動きがスムーズになってくる」「知的障害の子供達には映像や写真、画像等を使いながら説明し、理解を深めている」と特別支援学校での授業報告がなされた。

最後に中島研究者から、勤務校でのマイステップエクササイズについてのアンケート報告がなされ、事例研究・指導法研究は終了した。

その後、片岡正徳日本武道館振興部副参事が本研究事業の総括をし、充実した研究事業が終了した。

◆閉講式

研究者を代表し、前田研究協力者から「充実した研究事業となりました。子供たちの変容が見られ、非常に有意義な時間を過ごせました」と講評があり、3日間の全日程が終了した。